

全校朝会 講話(1.25)

皆さん、おはようございます。(パワーポイントを活用して)

寒い日が続いています。特に太陽の出ない日は、空気も冷たく、かぜが吹いたときなどは、とても寒く感じます。ちょうど今は一年で一番寒い時期になります。2021年のカレンダーでは、1月20日のことを大寒といいます。一年間を24に分けたものを、二十四節気といいます。大寒はその中の一つです。春分の日や秋分の日も二十四節気の一つです。大寒は書いてある時の通り、一番寒いときです。実際にはその年その年で最も気温の低い日が違います。

その寒い時期の先週の月曜日、1月18日には、東京で梅の花が咲きました。梅の花というのは、寒い冬を耐え、やがて来るであろう温かい春の訪れを、待ち遠しく感じさせる花です。春に近づくにつれ、咲く花として、次に桃の花を紹介しましょう。桃の節句、ひな祭りの桃です。濃いピンク色の花や薄いピンク色の花があります。ピンク色は日本語では桃色といいますね。桃は果物としても皆さん食べたことがあると思います。次に咲くのが、いよいよ春といえど…何でしょうか？そう、桜です。桜が咲くと、いよいよ春が来たな、という感じがします。日本中が桜に包まれます。花見に行った人もいると思います。きれいな花の下で、過ごすのが気持ちいいですね。ここで、日本の代表する3つの桜を紹介しましょう。

初めは、福島県の三春滝桜(みはるたきざくら)、桜の年齢として1000年以上です。次に岐阜県の淡墨桜(うすずみざくら)です。同じく桜の年齢として、1500年。最後に、山梨県の山高神代桜(やまたかじんだいざくら)、こちらは2000年ともいわれています。どの桜も、雨の日も風の日も、そして雪の日もじっと耐えながら生きてきたと思います。

今まで話をしてきた、梅、桃、桜、それぞれの花ですが、どれもあることが足りないときれいに咲かないそうです。なんだと思いますか。それは、寒さです。冬の厳しい寒さの中で寒さに耐えながら、次に咲く力を蓄えているのかもしれない。

これは、私たち人間にも当てはまることだと思います。つらいこと、悲しいことを経験したことがある人は、それを乗り越える中で、一步一步強くなっていきます。そして優しくなっている人が多いです。今やっている勉強でも、一生懸命努力をして、わからないことが分かった時、できなかったことができるようになったとき、とてもうれしいし、自信もつきます。前の自分より心が少し大きくなっていることでしょう。

コロナの厳しい中ですし、寒い冬の日が続きますが、冬は必ず春になります。そして暖かい太陽の日差しと、きれいな花々が咲く日も近づいていきます。皆さんは、次の学年へ向け、しっかりと学習と生活のまとめを進めて下さい。

これで校長先生のお話を終わります。